

SDGsのメガネを通して「いまの阿南」を見る。

# aman SDGs glasses

阿南SDGsグラスイズ

発行 阿南市・大正大学

1人でも意識が変わる

きっかけに

「オンラインスラック」平瀬紗衣

阿南は海川山が近くて大きいと言っ  
平瀬さん。

R3年4月、アクティビティでまわ  
しをするため、阿南市地域おこし協  
隊に着任。川SUPから始め、今では  
川と山のトレッキングやバックラフ  
トの事業化を進めている。特に、体験し  
た阿南の人が、自分の育った町の自然  
に感動して楽しんでくれることに「や  
りがいがすくある」といっている。

## SDGs Glasses とは?



SDGs Glassesとは、持続可能な地  
域づくりのために活動する姿が見える  
魔法のメガネです。

SDGsでは「誰一人取り残さない」を  
合言葉に17のゴールがあります。1つ  
のゴールを達成するためには他のゴール  
との「つながり」が大切で、一人一  
人が自分事にとらえ、立場や組織、  
領域を超える取組が必要なのです。

私たちの暮らしは世界と密接につな  
がっています。市民の皆さんがSDGs  
を身近に取り入れて実践していくことを見  
つめ直すきっかけとして、この  
SDGs Glassesが役に立ちますように。



## SDGsとは

Sustainable Development Goals

〈持続可能な開発目標〉の略

2015年、国連で採択された「2030  
アジェンダ」という文書に含まれる目標を  
差します。文書の主題は「我々の世界を変  
革する」となっており、最大のコンセプトは  
「変革」。今のままでは「つづかない世界」を  
「つづき世界」に「変革」するための行動目  
標です。SDGsには2030年を期限として  
17のゴールと169のターゲット、232の  
指標をとりまとめられています。実現にあ  
たっては「誰一人取り残さない」ことがうた  
われています。SDGsの17目標を3つの階層  
から成り、それらが密接にかかわっているこ  
とを示す図があります(SDGsウェディング  
ケーキモデル)。この図は「経済」と「社会」  
は「環境」なくしては成り立たないことを  
示しています。



SDGsにおける17の目標と環境、経済、社会との関係性 (Stockholm Resilience Centreより)

## 阿南市 SDGsの取組

阿南市ではSDGsを地方創生の原動力と  
して各施策で推進しています。ふるさと  
未来課では、阿南の豊かな海を体感しな  
がら「阿南ファン(E.S.C.A)」を増やす  
SUPタワープロジェクトを展開し、環境  
活動を実践するESPA(地元事業者)の  
返礼品を活用した阿南市版ふるさと納税  
も全国から共感を呼んでいます。今後は  
SDGsを理念としたビジネスや活動を支援  
し、地域経済が循環するシステム構築を  
目指します。次世代へつなぐ持続的なま  
ちづくりの実現に向けて、市民の皆さん  
と共にSDGsを推進してまいります。



自然の中に入ると、い  
つも見ている景色がガ  
ラッと変わるそう。だ  
中に入れば、海川山の  
大きさが感じられるに  
違いありません。

毎月1回、第2日曜日、  
参加者を募集しSU  
Pをしながらかみ拾い

をする活動をしている。活動に設定  
している参加費に、平瀬さんの思い  
が込められている。「小さくてもいい  
から、続けていきたい。続けるために  
は、どうしても必要な経費をみなさ  
んに負担してもらおうほうが良いと考  
えました。」とのこと。「やっているこ  
とは小さいけれど、海に流れるゴミ  
が少しでも減るし、1人でも意識が  
変わるという。」小さいけれど、と  
いう言葉の中に重みがある。SDGsは  
一人一人が行動を起すことが重要と  
されている。浜の浦緑地では、活動  
に参加する仲間  
が少しずつ、確  
実に増えている。



平瀬 紗衣

高校は市一師で、  
昨年、SUPインス  
タクター資格を取  
得。夢は古民家をリノ  
ベーションしたゲスト  
ハウスの経営。







# 遊ぶ！学ぶ！ 淡島無人島体験

名称：小学生むくわく南  
地域協力発見！無人島体験ツアー  
実施日：R3年7月24日、R3年9月4日  
主催：グランフットボール南高南地区協会  
協力：オーストラリア阿南、福村高英協同組合、  
阿南高専大田研究室



淡島は、海水浴場として愛される砂浜と、沖合いには釣りのメッカとして知られる福村磯がある。1日どちらの海も楽しんでもおもしろい！という子供向けの体験プログラムが実施された。午前はビーチクリーンとSDG体験で、美しい砂浜と海のレジャーを楽しむ。午後は漁船クルーズで荒々しい岩肌の島を眺めながら無人島に上陸。島では、砂浜とは違う磯遊びを体験。生きもの観察を通して、海と陸のつながりと生きもの関係を知る。これだけ盛沢山の体験をしても、子供達はまだまだ遊びたい！というほどの夢中ぶり。この素晴らしい海は世界にいま危機に直面していること、解決への道筋を示すSDGを学ぶことも、体験の大事なしめくくりとなった。これだけの体験プログラムが実施できたのは、いろいろな分野を超えた連携があったから。SDGの実現は、こうした連携を重ねることから始まるのかもしれない。



## おゆずりタウンで子ども服のリユースを

子供の服はまったなし、困っているお母さんの手助けになるよう、子ども服のリユースコーナーを事務所内に常設。さらに、綿の古布を糸糸のように作り直し、編むことで座布団やバッグなど新しいものへのアップサイクルにも取り組んでいる。「お母さんの笑顔づくりが家庭の笑顔につながります」とファミサポでは、基金の設置や多くの支援策の提供など、困りごとの解決手段がきめ細やかに準備されている。



## 無人島「野々島」をフィールドに持つYMCA阿南国際海洋センターでは、その自然豊かな海洋環境を活用した自然体験活動が50年以上に渡り提供されている。菅田さんは、キャンプを通じてSDGを「自分ごと」に落とし込む実践の場とする「SDGキャンプ」をデザインし、提供している。無人島での生活や海岸漂着ゴミを目の当たりにしたとき、自ら課題を見出し、解決策を考え行動することが、SDGを実践できる人材育成になると考えている。



菅田 育  
YMCA阿南国際海洋センター所長

## 自分のできることで、人と人をつなぐこと

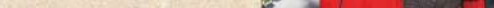
出荷できない野菜と、野菜がほしい家庭とを児童クラブを通してつなぐことができたという。そこで、子供達が土のついた野菜に触れる。親同士が美味しい野菜のレシピを交換するなど、廃棄野菜の解消とともに、新たな楽しみ、つながりが創出されている。



片山 美幸  
阿南市高岡町在住  
シルバー人材センター所属

## 未来に責任を果たせる事業を

サニズファームのオーナーでもある北條さんは、古から続く農業こそSDGに通うとして有機農業を実践普及する事業家だ。フードロスを削減するため、廃棄対象となる生産物に竹パウダーを加え肥料化し、循環利用している。「20年先の未来に向けて、これからの背景に、その責任を果たすための大きなビジョンが描かれている。」



## ごっついあなんフェア SDGs×生物多様性

阿南市役所に開設された図書館で、SDG関連の本の紹介と合わせ、生物多様性あなん戦略のイラスト原画展が開催された。原画展では、きめ細やかな手書きのイラストが30点以上展示され、多くのお客様を楽しませました。展示期間中には、「あなんの生きものを描こう」と段ボールお絵かきワークショップが実施され、子供達によるあざやかな生きもの屏風絵が完成した。



## SDGs認知度アンケート結果 (一部)

SDGsという言葉を聞いていますか？

知っている	31%
少し知っている	37%
知らない	30%
無回答	3%

名称：ごっついあなんフェア  
実施期間：R3年12月15日～26日  
ワークショップ：12月18日  
主催：阿南市、阿南市教育委員会、  
阿南工業高等専門学校、大正大学



阿南にはSDGsの眼鏡を通すと見えてくるたくさんの知られざる頑張っている人たちが居ます。



## SDGsカフェ

芝生にテント、デッキ、チェアにテーブルと、くれるワークショップが盛り込まれた。SDGのカフェが、あなんの暮らしを映し出す。地元産の飲み物は地元産の食材を使った。販売するSDGのアイテム、店頭ではSDGのグッズを通してアングレックの楽しみました。



## 食で温かい地域の未来創造 エシカルライフを地方から

食材の作り手のこだわりに共感し、それを伝えるべく、調理や加工を施す。食材、加工、流通と、食を支える多くの人の思いを伝えた、この思いこそ、地域の未来をつくるふるさと愛につながるという。おいしいの向こうには理由がきっかけであることを本元さんは教えてくれる。



## 木元 靖博

有限会社ウーワーク  
ESPA会員

